

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

新任職員ガイド 「公民館再生への道」

～住民を支え住民に支えられる公民館～

4.5

- 2 トピックス 退任のことば
- 3 視点 合併をして
- 3 ひろば 出会いの楽しさ
- 6 実践記録シリーズ 子ども体験教室と同時にジュニアリーダーを育成!
- 7 サークル交流 オカリナこのみ(魚沼市) / 朝日エアロビクスクラブ(朝日村)
- 7 素顔拝見 柳 秀人さん(十日町市) / 小笠原将臣さん(新潟市)



「中秋の名月 ほんかく 板額の宴」

胎内市

表紙解説 静御前・巴御前と並ぶ日本三大女傑のひとり、板額御前のイベント風景。板額御前が入場してきた1コマです。



今年も人事異動により五名の役員・委員の方々がご退任されることとなりました。ご退任に当たって左記の項目によりおことばをいただきました。

- ①異動内容・異動先等
- ②在任中、印象に残った事業、事柄等
- ③退任に当たって贈ることば(市町村合併後への提言等)

今年の人事異動に伴う当会役員 退任のことば

【県公連の一層のご発展を祈念】

①退任

②小千谷は震源地に極めて近く、未曾有の被害を被りました。

緊急災害直後の公共施設、特に公民館活動における住民コミュニティの大切さを改めて認識し、緊急時から現在における経過の中で「心のケア」が最も大切です。

③今だ復興半ばで、その上2年続きの豪雪に見舞われ、地域における「まちづくり」は思うように進まない状況ですが、明日を信じて「夢」、「生きる」、「励ます」を合言葉に、公民館の果たす役割は益々重要です。本年は、新潟県公民館大会が小千谷市で開催されます。よろしくお願いたします。



前理事 廣井 一

①合併後の佐渡市の方向性策定を機に辞職

②花は愛惜に散ると言われるが、課題に立ち向かっている間に13年の在任に。

中でも全国生涯学習フェスティバル新潟'97で、佐渡公連が、島の生涯学習成果発表会を主催し、島民に深い感動を広げ、啓発に貢献したこと。

③市町村合併で地域の壁を取り除くには、職員が相互の共通理解を深め一体感を醸成すること、これまで以上に公民館が地域に根ざし、住民の最も身近な存在になること。公民館事業の四層構造を念頭に、確かな実践を展開することにあると思う。



前理事 伊藤 博

①定期異動

長岡市芸術文化振興財団 特命主幹

②在任の1年目は水害・中越大地震災に見舞われ、2年目は平成の大合併に直面するという激動の2年間でした。

③平成の大合併が一段落し、新しい地域における公民館活動が重要となってきます。「自分たちの地域は自分たちで作る」という意識のもとに、公民館活動が活発に行われることを願っております。また在任中、自主財源確立の調査検討委員長もさせていただきましたが、皆さんの力を結集し、健全な財政基盤が築かれることを願っております。



前副会長 吉岡 潤一

①定期異動

見附市健康福祉課副参事

②1年間の短い在職でしたが、ウォーキング講座やキッズフェスティバルでのボランティアの皆様の熱心さ、行動力に驚きました。

③公民館はますます地域コミュニティに移行してまいります。地域の皆様主導の地域のために、住民のための活動の場であることに変わりはありません。

今までの生涯教育としての活動をより充実させ、支援していただけるよう公民館職員の皆様のご活躍を期待しております。



前評議員 平尾 芳典

①任期にて退任

②在任期間は12年ですが、平成6年の就任当初に「健康で明るい町づくり」を中心と風巻 貞夫 した、生涯学習基本計画の策定に取り組んでまいりました。生涯学習課職員は、全員公民館職員を兼任しております。社会教育係、社会体育係が一体となり、幼児から高齢者まで、軽スポーツを推進してきましたこと。

③津南町は自律で進む道を選びました。今年度2年目を迎えます。教育委員会の事務所と同所の公民館が「明るい町づくり」の玄関口として、その役割を担うよう期待いたします。



前理事 風巻 貞夫

「新任職員のための道しるべ」

好評頒布中!!

頒価 八〇〇円(送料実費)
問合せ・申込み 県公連まで

視点

合併をして

燕市社会教育課長 山田 政雄



去る三月二十日、旧燕市と旧吉田町、旧分水町が合併して新燕市が誕生しました。県内では平成の大合併としては最後となったようです。

旧燕市としては人口が二倍、面積が三倍となり、これから地域の交流が始まろうとしております。合併は、お互いの良いところは参考に、改善すべき点は見直していく好機であると思います。

多くの市民が訪れる公民館は、地域住民の交流の場であり生涯学習の拠点となります。情報が集まり交流が促進されることにより、地域が活性化していくものと考えます。そこに合併の効果が自ずと現れて来ます。

新しく選任される社会教育委員や公民館運営審議会委員は、新市の各地域の代表として選出されますが、全体としては減少してしまいます。きめ細かな対応で運営されるよう個々の委員の力量が試されるとともに、地域住民の要望等をこれからの社会教育計画に盛り込めるか、大きな鍵を握るものと考えております。

H O T N E W S

掲 示 板

第57回新潟県公民館大会 第1回実行委員会開催 準備いよいよスタート!!

- 日時 平成18年4月21日(金)
午後3時～
- 会場 長岡市中央公民館
- 内容
 - (1) 第57回新潟県公民館大会(第54回中越地区公民館研究大会)について
 - (2) 県公民館大会実行委員会について
 - (3) 県公民館大会準備日程及び役割分担について
 - (4) 準備上の諸問題について
 - (5) その他
- 主管公民館
小千谷市公民館、魚沼市公民館
川口町公民館

ひろば

田上町の楽しみ

田上町社会教育委員 高野 陽子

田上町には、護摩堂山という小さな山があります。六、七月には紫陽花祭りが催され、町外からも多くの方が観光に来られます。行つて帰つて小一時間という手軽さから、地元の人たちにとっては、四季を通じて、お散歩できる場所として愛されています。

私も、健康作りとリフレッシュを兼ねて、時々出掛けます。登れば必ず山頂での清々しさを味わえ「ちよつとカロリーを消費したかな?」という満足感も得られます。でもそれにも増して楽しみなのは、人との出会いです。登る時間帯や曜日によって、出会う方々の年齢層や目的意識が

違い、名前も知らないけれど、顔馴染みという方が増えて、とても楽しみです。道を歩いているだけではなかなかお互いの声を掛け合えないのに、なぜか山では自然に「こんにちは」と言えるのが不思議ですね。

町の公民館も、山と同じように、「ここに行けば誰かに出会えて、いつの間にか顔馴染みになり、輪が広がっていく。」そんな存在であるとうれしいです。



「公民館再生への道」

支えられる公民館～

私塾化傾向が指摘されている。本市でもこの10月から有料化になるが、講師が生計のために公民館を使用しているのではないかと指摘や、一部の市民しか利用していないのでは、ということなどが有料化可決の理由の一つとなった。

ただ今日の市町村の財政事情から、すべて公的負担で公民館の運営を行うことは、難しくなっていることを考えると、公民館を利用する住民や利用者が、公民館を自分たちの学びや集会の場として考えたらある程度の実費徴収は止むを得ないのではないか。

公民館生みの親、寺中は『公民館の建設』の中で、「公民館は「われわれの為の、われわれの力による、われわれの文化施設」であり「われわれの要望によって、われわれの為に」設置する公民館であるから、その経費は当然「われわれの力で」生み出し、提供するのである。」と述べている。

創生期は住民が主体となっていた公民館運営も、法の整備や国の補助金によって、施設職員も充実し次第に管理主体へと移行していった傾向がある。今日の時代は、すべてを自治体が面倒をみるという時代は過ぎたのではないだろうか。

もう一度公民館の原点に戻れば、ある程度の実費の負担は止むを得ないであろう。振り返れば住民要望で建設された公民館は、本市でも例外ではないが、設備や備品等住民による寄付活動によって整備されてきた時代もあった。再度、職員を含め利用者や住民が、公民館を我が家と思えるような公民館に対する意識の変容が今必要である。

なお、その他、公民館の基礎的な事項については、全公連の『月刊公民館』(05. 4月号)に「基礎から学ぶ公民館」と題し寄稿しているのでここでは省略する。(この文は、新潟県公民館連合会編『新任職員のための道しるべ』にも掲載されている。)

新潟県公連には、日頃から何かとお世話になっている。昨年3月には、全国的にいち早く「市

町村合併問題への対応」に取り組んでいた新潟の実情や新潟県公連の活動について研修の機会を得、新潟市関屋地区公民館で色々なお話を伺った。関屋地区公民館は平成16年度の全国優良公民館として、文部科学大臣の表彰を受けたお話を聞いた。中越地震の後ということで授賞式には出席できなかったとのことであったが、利用者からこの表彰と創立15周年を記念して『せきや』という記念の冊子が作られ、更に感心したのは、この表彰は公民館の利用者があってからのもので、表彰状を玄関の正面に掲げていたことである。余談ではあるが私の勤務する公民館も同じ年に表彰を受けており、地域の住民が盛大な祝賀会とともに記念樹を贈っていただいた。まさしく利用者や地域の住民に支えられている公民館であると実感した。また、今年1月には市町村合併の忙しい中を、本県船橋地方の館長研修に、新潟県公連副会長で長岡市中央公民館の吉岡館長にお越しいただき「中越地震の避難場所となった公民館長による非常時の体験」について、貴重な体験の中からお話をいただいたりした。

これからの公民館は、法のいうように「実際生活に即する教育、学術、文化」に関する事業は勿論であるが、もう一度原点に戻り、こうした地震や豪雨等の自然災害、子育てや新しい情報科学への対応、裁判官制度等の新しい制度の啓発など、新しい生活課題に対し、地域の総合的な拠点として、住民を支え住民に支えられる公民館が必要である。

最後に、こうした課題を肌で知る上で、机上や窓口の応対だけではなく、利用者との日常の交流や、顔が見え、声を交わせる公民館となる上でも、再度各種団体への支援等を強化することによって、公民館に多くの住民が寄り、地域の居間としての役割を果たすことが公民館再生への近道でなかるうか。

特集

新任職員ガイド

～住民を支え住民に

千葉県公民館連絡協議会
事務局長
(船橋市北部公民館長)
朱膳寺 宏一



平成の大合併の第一章がこの3月で一応終わった。千葉県内においても多くの新しい自治体が誕生し、新しい時代を迎える。広域化した市では、新たな住民との協働によるまちづくりや人づくりが展開されようとしている。一方、合併と行政改革で、予算や公民館の削減、更には公民館の有料化や指定管理者の検討など、公民館を取り巻く環境は厳しくなっており、その役割や存在意義が問われ、公民館は正に岐路に立っている。今、改めて社会の変化に応える社会教育施設としての公民館の役割や必要性、在り方等々について考えてみたい。

つい最近こういう例があった。

新潟県公連の事務局長から新任職員ガイドの執筆の依頼があったその日の午後、一本の電話があった。「全公連のネットでみましたが、お尋ねしたいことがあります。公民館法ってあるのでしょうか。」どうやら、全公連のネットから千葉県公連の事務局を知り電話をかけてきたようであった。

ある市の公民館に問い合わせたら、「公民館は公民館法で定められている学習施設で、子どもの騒音などで学習に迷惑のかかるような、そうした活動にはお貸しできません。」という理由で断られたとのこと。その母親は、こうした回答に納得できず、ネットで全公連を開き、千葉県公連の事務局に問い合わせたようであった。

また、インターネットで次のような例があった。吸収合併による会場の貸出についてである。合併

前のある町では「政治報告会」に会場の貸出をしていたが、吸収合併後になって合併先の市ではそうした集会には会場は貸すことはできないという内容であった。同じような問題で、合併によって貸出時間や休館日、23条の解釈等すり合わせをしなければならないことが多くあると聞く。

こうした例は数多くある。それではどのようにしたら公民館を使用できるのか、どうしても使用できないとしたら、他の施設を紹介するなど、住民の立場にたった視線で利用者への対応をしたならばこうした問題は少なくなるであろう。加えて、職員として各種の研修や情報の交換等を通して、公民館の基本的なことを知り、更には生活や地域の課題など、今、公民館が住民にどのようなことを求められているのか、公民館職員として色々と知っておかなければならないことがある。職員が管理的になり住民にとって負の対応をしていたら、公民館も負の道を歩むことになる。

次に、公民館使用料の有料化について考えてみたい。これまでは、法の理念として地方公共団体が社会教育の活動を奨励援助するように定められ、多くはこうした活動に対して無料の原則としてきた市町村が多い。

千葉県内では有料化の波が押し寄せ、18年度には20を越す市町村が有料化の導入や検討がされている。料金的には大半は実費相当額程度であるが、従来、公民館主催事業とともに、サークル活動も公民館活動の両輪としてその一翼を担ってきた経緯からすれば、財政的な面でサークル活動に与える影響は大きい。実際に、わずかなお金でも負担できず解散せざるをえないサークルも出てきている。

この実費徴収は、行革の一環ではあるがその一方の背景として、多年サークル活動を続けていると、職員とサークル会員や講師との距離が遠くなり、主役からお客さんへ、サークルの目的意識の希薄化や、役員の問題から特に都市部においては

実践記録

98

シリーズ

子ども体験教室と同時にジュニアリーダーを育成！

上越市立大島地区公民館 班長 小山 卓男

1. はじめに

大島地区公民館では、平成17年度から「ジュニアリーダー育成講座」として、高校生のリーダー育成を図っています。学校週5日制が始まった時期から取り組んでいる子どもの体験教室(年に7回ほど実施)に合わせ、ジュニアリーダー育成講座を実施することにより、子どもと一緒に活動するボランティアスタッフとして、活躍してもらおうという狙いです。現在、地元の高中生10人が登録しています。

2. スタートまでの道のり

参加できるときだけ参加してもらうのも良い方法とは思いますが、「ジュニアリーダーボランティア登録」を促し、実際に登録申込みがあった高校生に対して、ダイレクトメールでいろいろなお知らせをすることとしました。そのために、3年生が卒業式を迎える時期に地元中学校に出向き、生徒たちに体験活動の内容や先輩の活動を紹介する場を設けています。中学校の先生方の理解もあって、私たち職員が資料を持参し、教室でお話をしていますが、その場ですぐに興味を示す生徒も少なくありません。



カヌー体験教室

野外炊さん
薪づくり

3. 講座実施における悩み

高校生がボランティアとして活躍してくれ、子どもと同じフィールドにいながら、自然と子どもたちへの接し方や集団生活におけるリーダーシップが身に付けば、と考えていました。最初に、「一緒になって遊びながらリーダーが生まれてくれれば」と甘い考えを持ってしまい、一生懸命参加を促さなかったのが苦勞の始まりでした。せっかく登録してくれているジュニアリーダーの高校生が、学校行事や部活動なども忙しく、まったく参加者がいないという状

況が続きました。

年度末にアンケートを実施したところ、目にとまったのが「参加したいが一緒に行く仲間がいない」という回答でした。次回からは、参加しやすい環境づくりの課題も見えました。

創作教室
門松づくり①創作教室
門松づくり②

4. ジュニアリーダー通信の発行

「ジュニアリーダーの活躍を紹介することで高校生のやる気を引き出そう。活躍ぶりを見た他の高校生の興味を引こう。高校生が通う学校の先生に、生徒の活躍を知ってもらおう。」こんな意味を込めて、ジュニアリーダーの活動や子ども体験教室を紹介する手作りの新聞を作ることになりました。その新聞は、中学校にも届けて先生と生徒全員に見てもらっています。地元の高中生が、地域の公民館事業にボランティアとして参加しているということは素晴らしいことだと、お褒めの言葉をいただきました。これを見た中学生が、次代のジュニアリーダーとなってくれることも期待しています。

5. その他の活動

上越市大島区の青年団は、さまざまなボランティア活動に取り組んでいます。その活動の一環で「子ども体験教室を手伝わせてほしい」と、公民館に話があり、昨年秋の子ども体験教室をお任せしました。何日も前から打合せを重ねながら準備を進め、当日は10人ほどの若者が集まり、野外炊さんやレクリエーションなどで子どもたちと活動しました。参加した子どもたちは、いつも以上に楽しそうに過ごしていました。青年団からは、今年も協力させてほしいと依頼を受けているので、ジュニアリーダーの育成とあわせて「若い力」に期待しているところです。

オカリナに出会って

オカリナこのみ

平成十七年五月から開催された公民館のオカリナ教室に集い、初めてオカリナを手にしました。堀井康子先生からオカリナの持ち方・音の出し方など基礎からご指導をいただき、八回の講座が終りになる頃、ようやく曲が奏でられるようになりました。

その嬉しさと感動をみんなで共有し、十月にサークル「オカリナこのみ」が立ち上がりました。二十歳代から六十歳代までの会員十五名で、月二回公民館を会場に練習をしています。



陶器のオカリナは悲しいような、懐かしいような、しかし温かい素朴な音色で私達の心に訴えて来ます。オカリナを楽しみたい人の輪が、もっと広がることを願っています。

魚沼市
オカリナこのみ
代表 宮 フミ 記



楽しく健康管理!

朝日エアロビクスクラブ

以前、村の社会体育活動の一環として行われた数回の教室への参加がきっかけとなり、終了後も有志で継続しているサークルです。週に一度公民館の一室をお借りし、気



持ちの良い汗を流しています。気付けば、今年で十四年目を迎えました。

長い間には、都合の悪い日があつたり、地域柄、天候に左右されたり、参加者も一定ではありませんが、何とか継続しています。講師の方が、時にはヨガやウォーキングなども取り入れて下さることも、楽しく続けられている理由の一つかも知れません。体の隅々まで気持ち良く伸ばし、やり終えた時の爽快感を味わいたくて、これからもマイペースで続けて行きたいと思えます。

朝日村
朝日エアロビクスクラブ
代表 飯沼 巳智子 記

昨年春は、正副館長、事業係2人が入れ替わるサプライズ人事でした。柳は、社会教育分野は初めてなのですが、最年少(29歳)の故をもって青年学級担当になりました。伝統ある学級も最近すっかり様変わりし、おまけに中越大震災で使用不能となった勤労青少年ホームの講座もいっしょに運営したので苦労も多かったはずです。

着眼の鋭さの一方で、女性や
十日町市中央公民館
主事 柳 秀人さん



子どもに優しいなど、とらえどころのない不思議さが彼の魅力です。割と粘り強いようだし、青年たちとの関係もまあまあ。しかし、180人の青年と切り結んでいくには、まだ勉強不足です。

生涯学習を実践し、参加者といっしょに学び、育つ職員であってほしいと願っています。

(十日町市中央公民館副館長 斎木文夫 記)

当館の若手 No. 1、小笠原将臣君を紹介します。彼は身長184cmと当館トップの大型選手で、学生時代はサッカーとアメ・フトで活躍し、現在も休日にはサッカーを楽しむ弱冠24歳です。先輩職員からは弟(息子?)のように扱われ、本人が好まざるともかかわらず、いろんな意味で可愛がられる存在です。

そんな彼ですが、就職前から公民館の学生ボランティアに参
新潟市生涯学習センター事業係
主事 小笠原将臣さん



加し、現在の職場も3年目となり、憲法に関する講座から子育てサークルの運動会まで幅広く活躍するほか、私生活では昨秋に結婚し、新婚旅行では溪流下りのボートが転覆して流されかけた花嫁の手を必死に握り続けた(お蔭で花嫁は溺れかけたそうですが…)という、頼りがいのある一面もあります。

こんな「おがちゃん」をどうぞよろしく。
(新潟市生涯学習センター 佐藤 功 記)



